

第5回 長期的な土地利用の在り方に関する検討会

土地を利用・管理する主体と 利用・管理を担保する手法等

2020年12月11日

広田 純一

(非特)いわて地域づくり支援センター・理事長
(岩手大学名誉教授)

主旨

1. 中山間地域の農地の管理および新たな利用の推進は、現在そこに暮らす住民だけではおそらく困難。
2. 非住民が農地の利用・管理に関わる例は急速に増えつつあり、非住民の継続的な参画を担保するような仕組みが求められる。
3. 「拡大コミュニティ」は、その仕組みの一つとして参考になる。
4. 中山間直接支払と多面的機能支払は、非住民の継続的な参画のきっかけづくり、および参画の維持・継承に役立ちうる。
5. 中山間地域の農地の管理および新たな利用の推進には、多様な農業者の参入が求められる。将来的には、優良農用地概念の拡張も視野に入れるべき。

新たな土地利用への転換

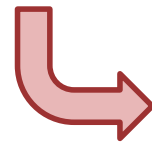
1. 粗放的な農地利用
2. 非農地への転換
3. 復旧容易な非農地への転換



誰が行うのか？



現住民だけでは困難？



非住民への期待

農地管理への参加が想定される非住民

- 地縁者

- ①現住民の転出家族（元住民）

- ②空き家の転出世帯（元住民）

- ⑤同窓会・同郷会

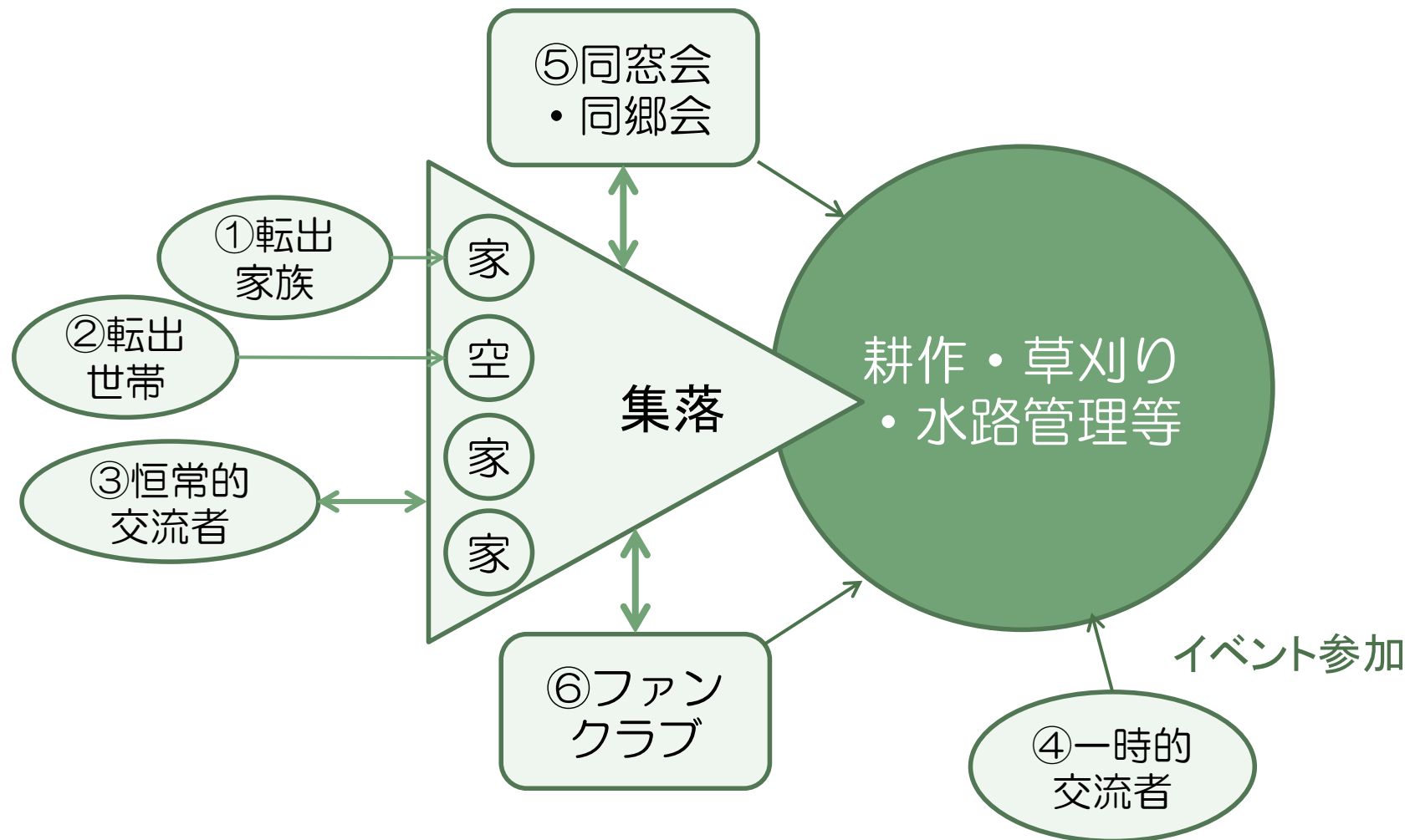
- 非地縁者

- ③恒常的交流者

- ④一時的交流者（行事参加）

- ⑥ファンクラブ
（オーナー制度，サ
ポーター制度なども
含む）

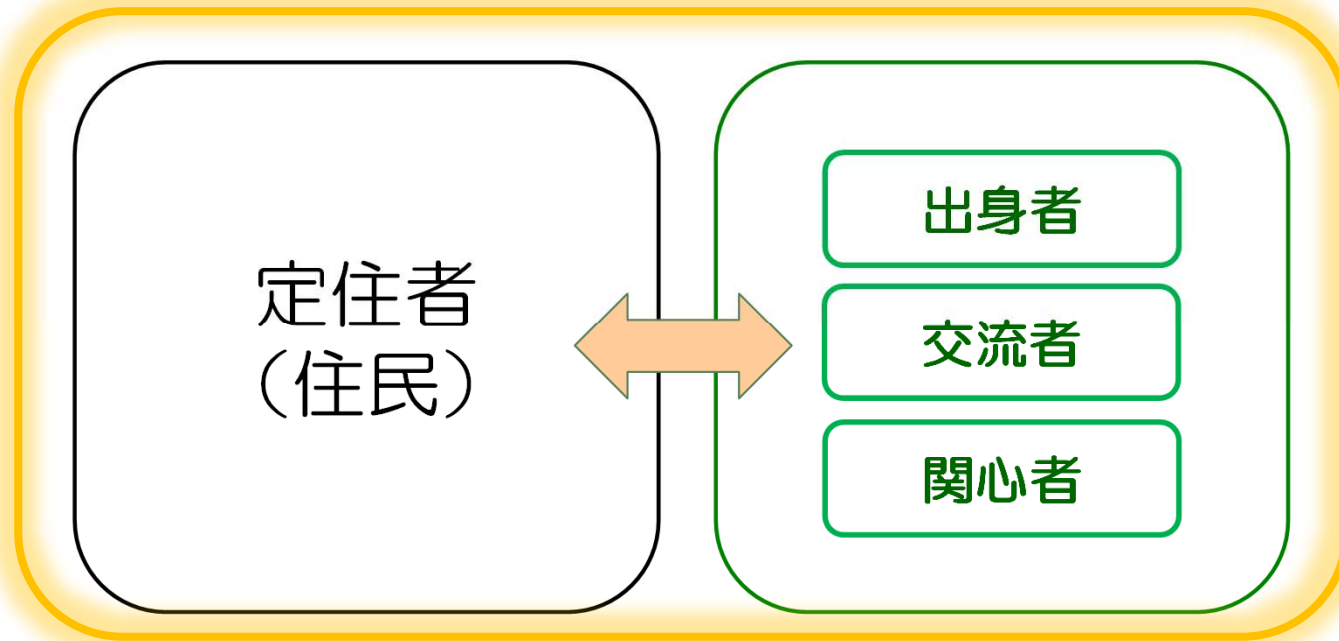
農地管理への非住民の参加形態



拡大コミュニティ

定住者と非定住者でつくる
コミュニティ

コミュニティを運営する
組織・体制がある。



多様な形態あり

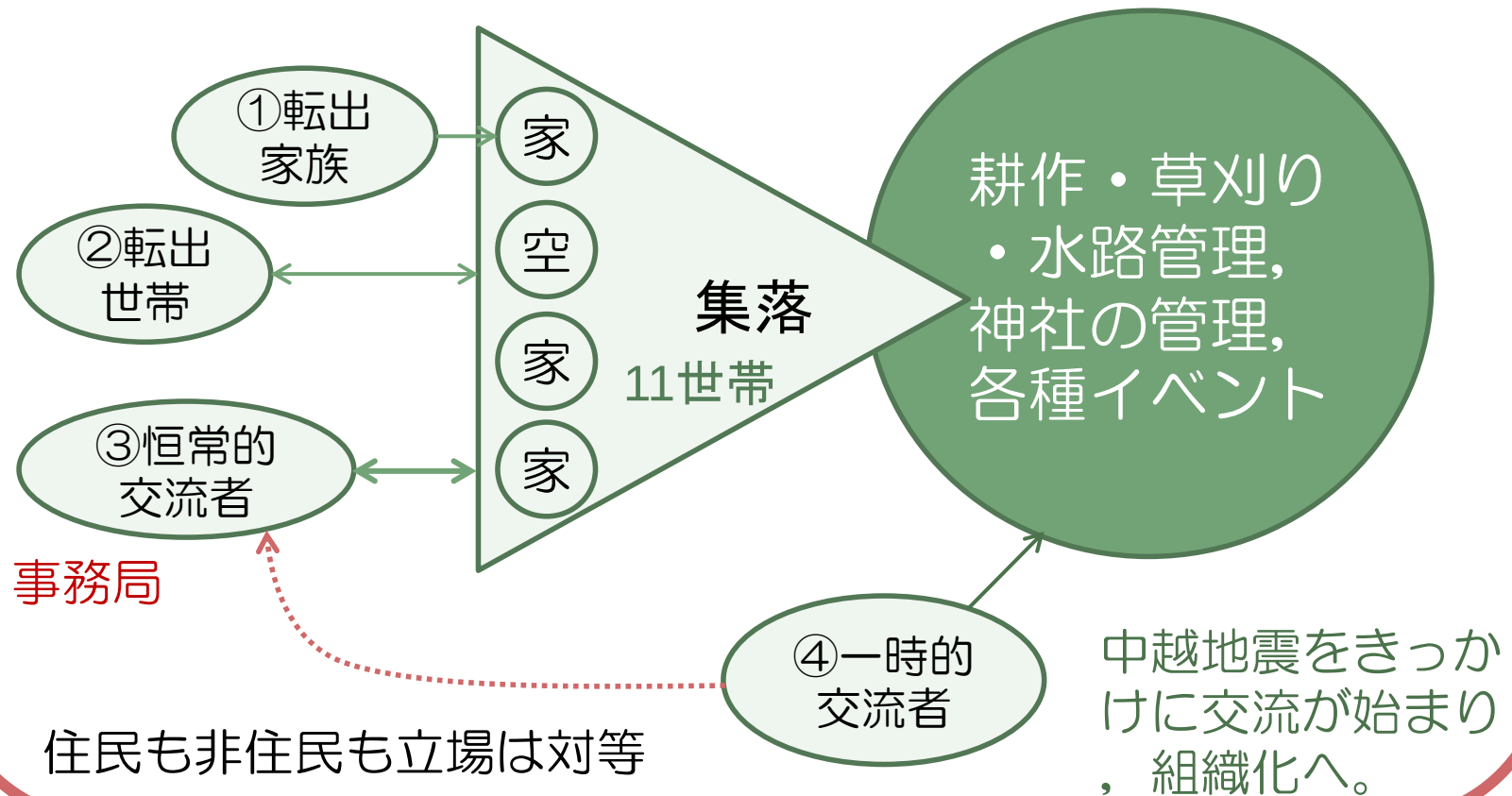
継続的で多面的な交流・支援

- ▶ 地域活動への労力提供, 金銭支援, 情報提供
- ▶ 定期的な訪問・交流
- ▶ 将来的には地元への帰還・移住も

新潟県長岡市旧山古志村木籠^{こごも}集落

木籠ふるさと会

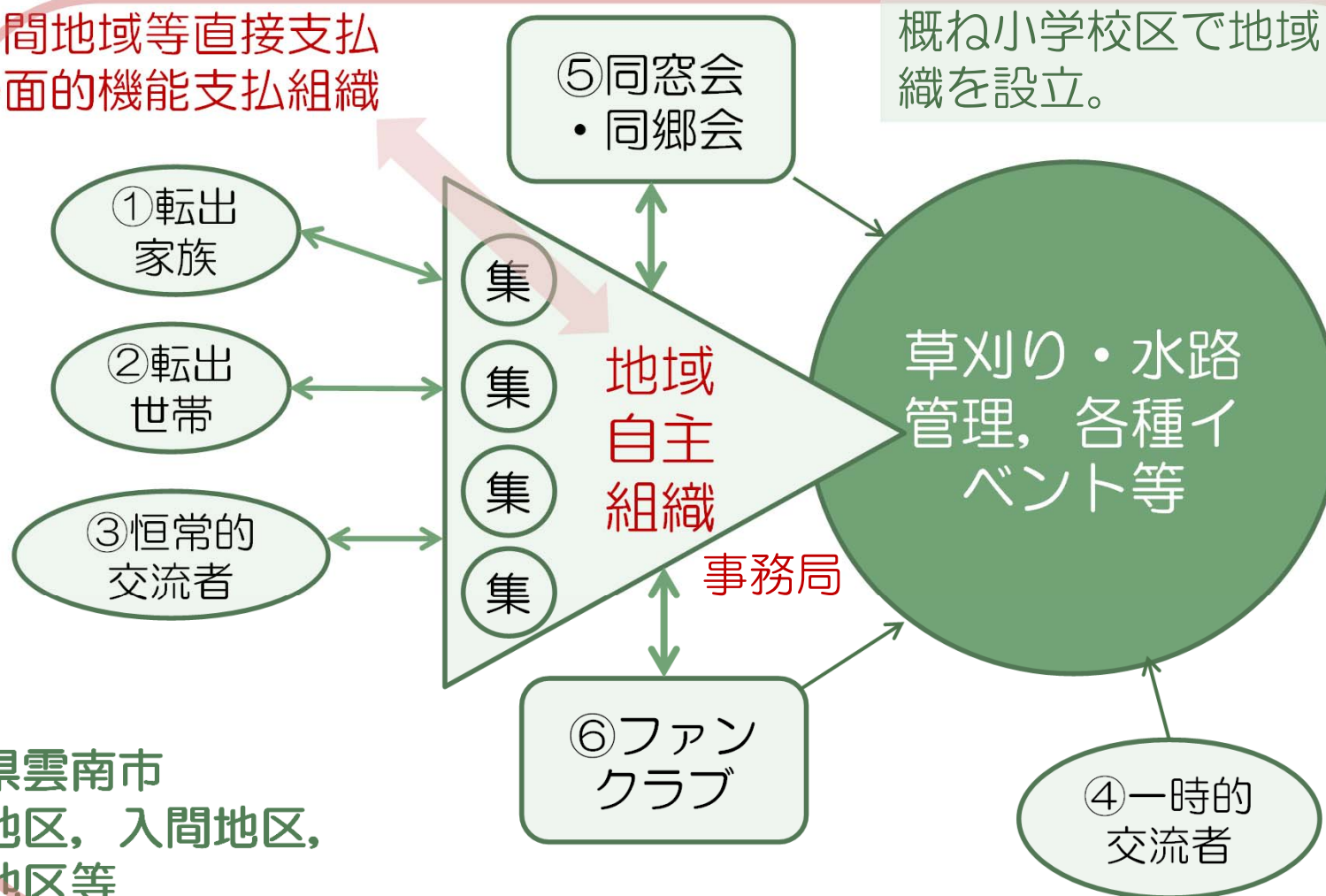
約120人



島根県雲南市の地域自主組織

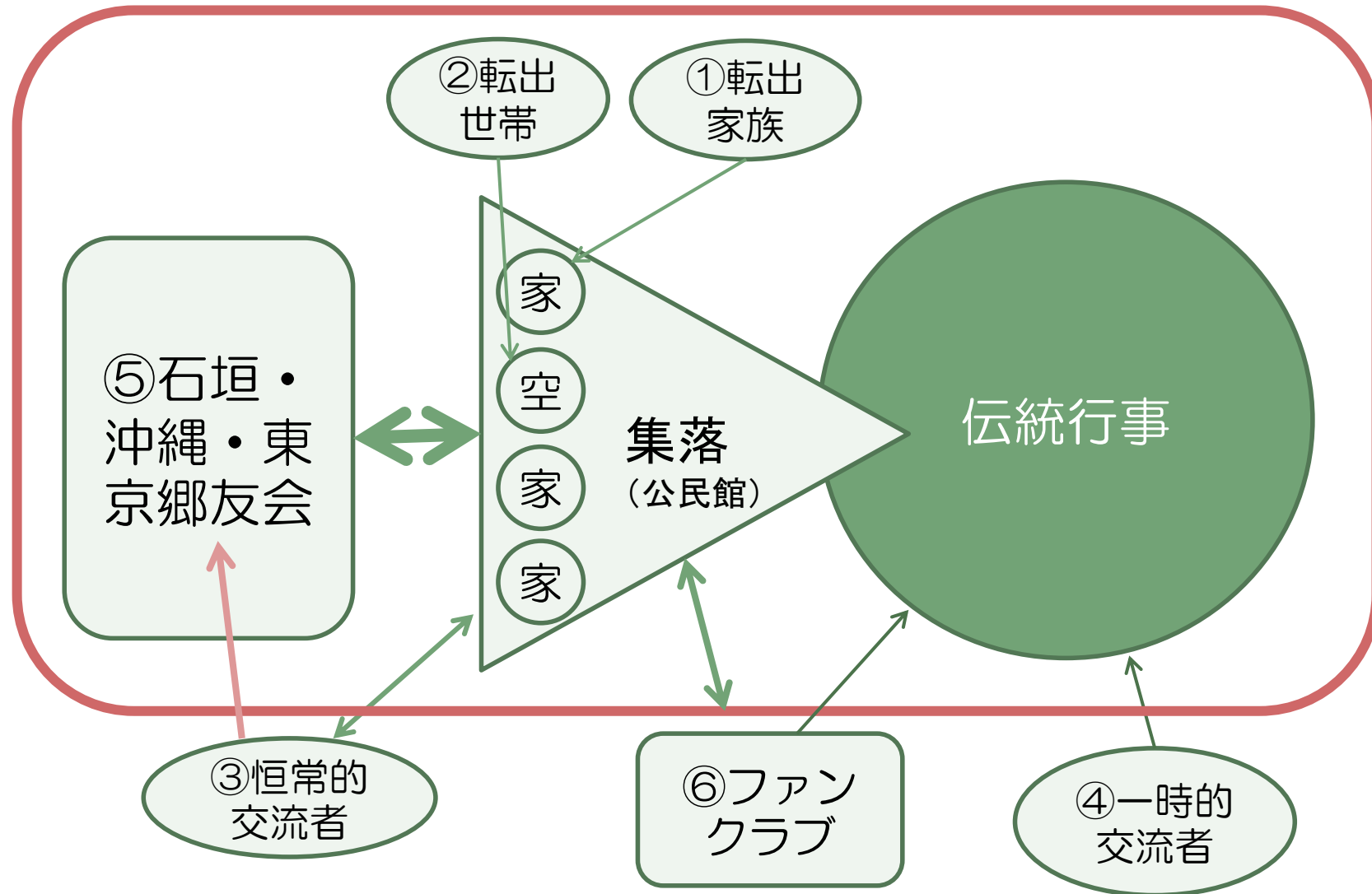
市町村合併をきっかけに、概ね小学校区で地域自主組織を設立。

中山間地域等直接支抔
・多面的機能支抔組織



島根県雲南市
波多地区，入間地区，
民谷地区等

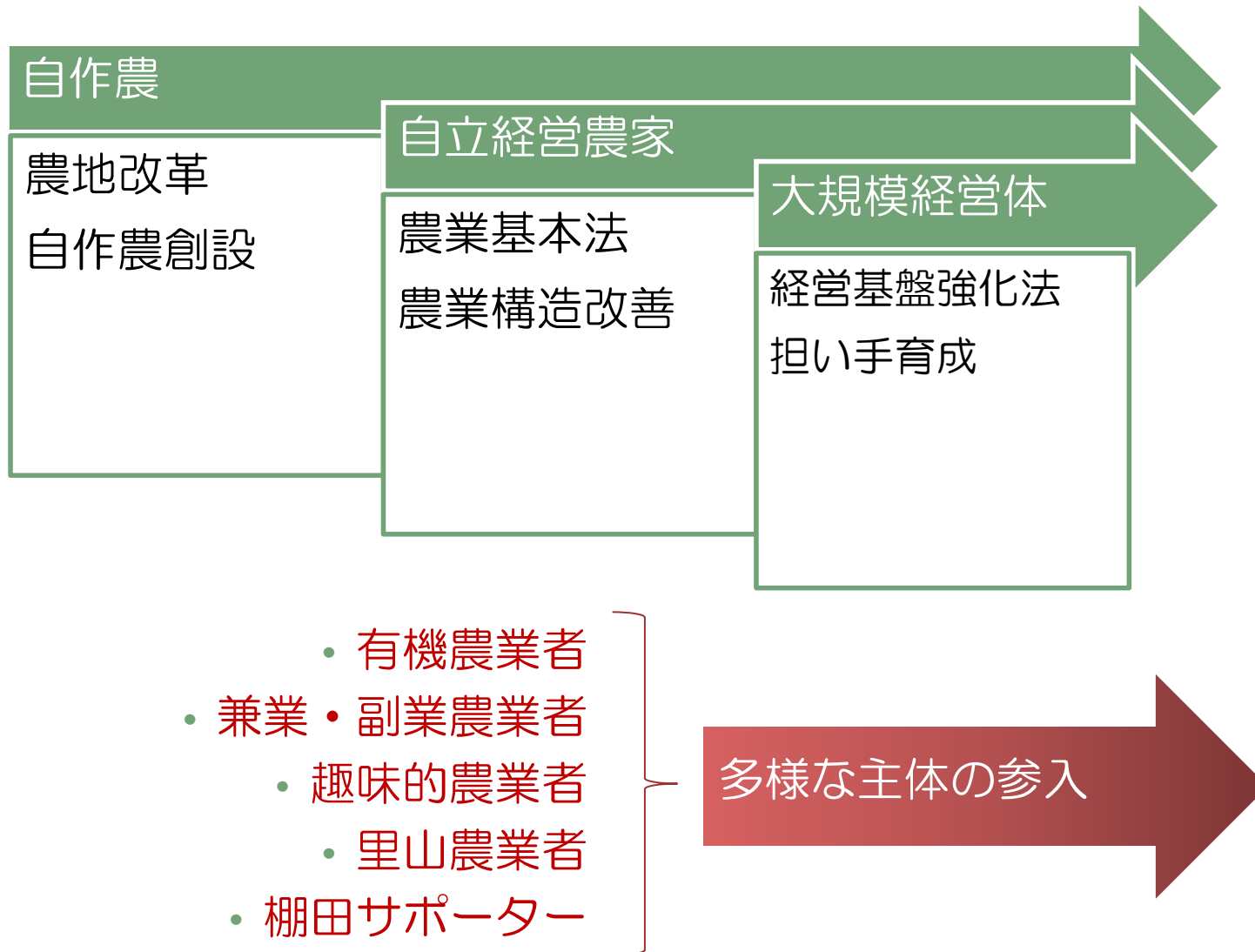
沖縄県竹富島の郷友会



拡大コミュニティ形成の留意点

- ポイントは運営を担う事務局
 - 集落では難しければ、地域運営組織で。
 - また地域の住民が無理なら、非住民（団体）が担ってよい。
 - 地域おこし協力隊や集落支援員制度の活用も
- 中山間地域等直接支払制度と多面的機能支払制度は、拡大コミュニティ形成のきっかけにもなるし、逆に拡大コミュニティの活動を支える仕組みとしても機能しうる。
 - 中山間地域等直接支払の集落戦略は良いきっかけにできるはず。

農業者の多様化の進展



優良農用地の多様化を

